

眼科摘要

五

富士川文庫



496.2

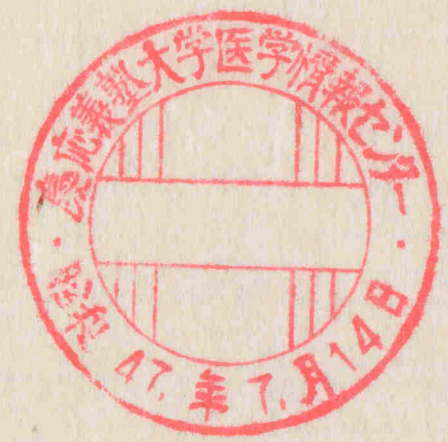
Ga-2

5

F⁵
カ-84

496.2
Ga-2
5

No. 885



富士川文庫

3171

眼科摘要卷之五

荷蘭

朋百般默兒埕兒法爾篤鈔

佐倉

佐藤 舜海 閱
倉次 元意 譯

強膜焮衝

此膜ハ血管神經渉ルヲ甚タ少シ。故ニ其新陣代
謝モ亦緩慢ニシテ。成形力モ甚タ微ナリ。凡ソ普
ク云フ所ノ強膜焮衝ノ症状ト名クル者ハ。實ニ
強膜ノ結膜ニ粘連スル。最モ薄キ一層結組織ノ
焮衝ヨリ外ナラス。又夕紅彩焮衝。脈絡膜焮衝ノ

眼科摘要 卷之五

高胡山房藏

併發症トナリ顯ル、者ニシテ、強膜焮衝ノ獨立
スル者ハ未タ嘗テ非ス、通例強膜焮衝トナシ論
スル所ノ諸症左ノ如シ、

始メ平常ニ變ラスシテ、結膜下赤色ヲ顯シ、微系
血管顯レ、角膜邊緣ニ當テ、其脉管充實シ、甚タ細
ヤカニシテ接ロスルヲ少ナク、又其脉管轉移セ
ス、蓋シ結膜ニ渉ル所ノ脉管ハ、指ニ觸ルレハ忽
チ轉移ス、是レ強膜焮衝ト、結膜焮衝トノ異ナル
所ナリ、其脉管ノ色ハ鮮紅ニシテ、只小腹多血ヲ
合併スル者ノミ、其中帶青赤色ヲ顯ス者ナリ、角

膜ノ灣狀脉管甚タ著シク、角膜ヲ去ルヲ半ステ
レーゴヨリ、一ステレーゴノ所ニアリ、或ハ邊緣

ニ密接スル者アリ、此灣狀脉管位置異ナルヲ以
テ、毛様靱帶焮衝ト辨別スヘシ、毛様靱帶焮衝ニ
モ、亦タ灣狀脉管ヲ顯ス、然レ凡角膜ヲ去ルヲ二
ステレーゴヨリ、三ステレーゴノ所ニアリテ、其
色頗ル帶青色ナリ、其他羞明、眼瞼痙攣ヲ生ス、其
諸症ハ、焮衝ノ度ニ應ニテ微甚アリ、始メハ疼痛
張ルカ如ク、押スカ如ク裂カ如ク、終ニハ突カ如
ク、眼ノ深所ニ及ホシ、猶甚シキハ前頭ニ及ホシ、

熱淚出テ其性酷烈ナリ。

微糸血管ノ轉移スヘキト。然ラサルトヲ以テ此
症ヲ辨別スルヲ良法トス。又多クハ刺衝機尤進
シテ發熱ス。而ノ焮衝ハ。眼球ノ目撃ニ得ヘキ所
ニ蔓延ス。而ノ結膜焮衝ヲ合併シテ。眼瞼ノ邊緣
ニマテ及ホシ。或ハ角膜焮衝。紅彩焮衝。脈絡膜焮
衝。網膜焮衝ヲ合併ス。病性。或ハ焮衝性ナル者ア
リ。或ハ神經性ナル者アリ。其神經性ナル者ハ。羞
明ヲ發スルヲ甚ク多シ。

經過

急性ヨリ慢性多シ。若シ治療ヲ施サ、レハ。其經
過頗ル長シ。惡液質ナル者ハ。數月ヲ經テ始メテ
治ス。

原因

二十歳ヨリ三十歳ノ際多シ。其他。腺病。痿麻質器
械樣ノ損傷是レニ属ス。

轉歸

第一

解散

是レ尋常轉歸ニシテ。時ニ應ニ治法宜キヲ得レ
ハ。則チ解散ス。只再感ノ患多シ。

第二

水樣滲出

屢々結膜劇甚焮衡、及ヒ眼瞼腫ヲ合併ス。

第三

強膜化膿、及ヒ脫垂原名脱垂トウク今假

結膜ノ化膿ト共ニ合併シ来リ、多クハ惡液質ノ

病者ニ於テ見ル所ナリ、始メハ尖疹ヲ作り、破レ

テ其外表潰爛ニ、漸ク深所ニ及ホス、此症ハ多ク

ハ角膜邊緣ニ起リ、其化膿延テ角膜ヲ潰爛ニ、是

レヨリノ網膜、硝子體ノ一部脫垂シ、帶青若クハ

黑色ノ突起ヲ致ス、是レヲ名ケテ強膜脫垂ト云

フ、此ノ脫垂、角膜ニ接シテアレハ、則チ視力全ク

碍ラレス、硝子體前ニ出テ、紅彩ヲ突張シ、瞳孔闊

大シテ、偶角ヲナシ、動カス、若シ角膜ヨリ離レテ、

網膜ノ神經纖維顯ル、所ニ、此脫垂ヲ致セハ、則

チ麻痺シテ盲ス、

此脫垂、又外傷ヨリ起リテ、漸ク以テ顯レ、其症狀

増進ス、

第四 強膜軟化、膨脹突出、

腺病性慢性角膜焮衡、紅彩焮衡ノ後是ヲ生ス、又

毛樣靱帶、強膜焮衡樣軟化ノ後モ致ス、通例強膜、

緊張膨腫シ、帶青赤色トナリ、或ハ其一部ニ腫ヲ

發ス。是諸眼科士ノ、強膜葡萄腫ト名クル者ナリ。
多クハ視力廢ス。殊ニ角膜ニ接シテ、其腫大ナレ
ハ然リトス。疼痛ヲ發スル者稀レナリ。紅彩多ク
ハ色ヲ變シ。其上ニ滲出物ヲ出シ、血管此ニ繞
リ。其邊リニ瞳孔愈合シテ引縮セラレ、或ハ滲出
物ニテ塞ル。視力消亡ハ殊ニ本病ニ兼發スル所
ノ、脈絡膜病ト、網膜病トニ關係シテ次第アリ。瞳
孔多クハ光輝ニ觸ル、ト雖氏縮張ナク、結膜ノ
血管或ハ靜脉様ヲ致シ、紫黑色ヲ顯ス。病所ニ就
テ是ヲ區別ス。ハ前側後ノ三別アリ。

此病ニ兼併シ、或ハ繼發スル病頗ル多シトス。就
中病處ニ及スル所ノ脈絡膜麻痺、水晶體脫出、内
膜及ヒ透光物ノ給養缺乏是ナリ。

第五 強膜硬結稠厚

此症、強膜ノ全面ニ生スル者アリ、或ハ其一所ニ
生スル者アリ、皆纖維素滲出ニ罹ル。硬結ハ多ハ
海綿狀組織中ニ生ス。故ニ強膜ニ生スルト少シ、
只強膜ニハ一種ノ成形組織アリテ、屢是ヲ生ス、
即チ絞縮物是ナリ。是一種ノ硬結ニシテ、血液缺
乏ニ及子テ、給養不足スルニ出ル者ナリ。其他、角

膜ニ小贅肉、小肉腫等アリ、二「」ニヨリ六「」ニ大ニシテ皆良善性ノ者トス。

第六 強膜創

他病ヲ合併セサル者ハ、危険ナラスシテ速ニ治ス。然レ氏創者惡液質ニシテ、其性ヲ合併スレハ危篤トナル。角膜邊緣ニ接スル創ハ、紅彩突張シテ拊出シ、瞳孔多ハ閉合ス。此病ハ内障鍼ヲ以テ、瞳孔ノ位置ヲ正復セシメ、而メ有力嚴酷ノ防熈法、殊ニ寒菴法ヲ行フヘシ。硝子體失亡少ナケレハ意トスヘキ者ニアラス。三今以下ノ失亡、角膜直チニ復古ス。

ノ強膜邊緣ニアル所ヲ破裂スルモ、結膜ハ彈力アルヲ以テ破レサルヲアリ、則チ以テ眼ノ内器ノ脱出ヲ防クニ足ル。内部出血、網膜、紅彩ノ麻痺ハ、危険ノ合併症トス。又此症神經ヲ損傷スレハ、嘔吐ヲ繼發スルヲ見ル。

豫後

強膜燠衝、結膜燠衝ノ豫後ニ同シ。只惡液質ノ者ハ、脈絡膜ニ轉移シテ、危険症ヲ誘出スルヲアリ。是其異ナル所ナリ。外表強膜化膿ハ治シ易シ。脈絡膜突出スレハ續テ失明ス。葡萄腫ノ豫後ハ、其

病性ト經過トニ關係シ。又合併スル所ノ病性ニ關係シテ異ナレリ。硬結稠厚ハ。極度ニ至レハ其壓迫ノ為メニ障礙ヲ致ス。

治法

其一

強膜煥衝

防煥治法ヲ要ス。蓋シ病者ノ體格ニ從テ是ヲ應用スヘシ。殊一水銀軟膏ニ阿芙蓉ヲ和スル者ヲ。眼圍ニ塗入スヘシ。

其二

分解法。効ヲ奏スレハ其再感ヲ防リニアリ。殊ニ

視力ヲ害スル一切ノ諸件ヲ避ケ。病原トナル宿疾ヲ恢復スルニアリ。

其三

潰瘍ニ轉スル者ハ。結膜潰瘍ニ同シ。脈絡膜瘡口ヨリ突出スル者ハ。其事一應シテ是ヲ處置スルヲ要ス。其突出ヲ復故シテ。絆創膏ニテ閉合セシムルニアリ。

其四

葡萄腫ニハ。血液輻輳及ヒ滲出物ヲ。適當ノ法方ニテ遏絶シ。而シテ其方ヲ持長スヘシ。寒罨法奇驗

アリ。晚期ニハ収斂劑、單寧劑、銘糖應ス。デスマル
ス。名ノ説ニ從ヘハ、一週間ニ二回、硝酸銀水ヲ塗
貼ス。又軟ニ針刺内障眼シテ、次第ニ鬱蓄スル所
ノ者ヲ及復シ泄スモ可ナリ。若シ葡萄腫、全發ス
ル者ハ必ス不治トス。其突張スル所ヲ剪除スル
ノ外ハ術アラス。是ヲ剪除スルノ後、眼ヲ塞キテ
其創痕ヲ愈シ、義眼ヲ造リテ其醜ヲ補フヘシ。
硬結、稠厚ハ、結膜ノ治法ニ同シ。

角膜焮衝

往昔、解剖諸家難シテ去ク。角膜ニハ血管ナリ

又神經ナシ。故ニ焮衝ヲ起スノ理ナシ。ヒルトル
等ノ諸家ハ、曩キニ既ニ角膜中ニ血管アルヲ
發明セリ。只平素ハ、其内血球ヲ通セス。又所謂血
積ナル者ニ於テモ、血球其内ヲ環ラス。而メ其内
ニ流滴スル者ハ、血水ニシテ其原ヲシリアイル
動脈尾條ヨリ撮ル。神經ハ、毛様靱帶神經ノ末梢、
分歧シテ角膜中ニ入ル。然ラハ則チ此膜焮衝ニ
係ラスト云フヘカラス。凡ソ角膜ハ四層ヨリ成
ルモノナリ。

第一層 前エビトリム層

第二層 真角膜素織

第三層 デッセメント膜 一名 デスマルス

第四層 後エビトリム層

第一 疹状角膜燐衝

此病ハ腺病質ノ小兒多ク病ム者ナリ時ニハ腺病ノ為メニ水脉核ノ努張スル者結膜燐衝ヲ發スル片ハ此燐衝ヲモ合併ス其發スルヤ疹状ハ或ハ角膜炎ナシ蓋明アリテ淚常ニ流レ結膜血ヲ灌キ、角膜少シク赤ク一二日ヲ過テ疹状汚穢ノ灰白色ヲナシ其上ヲ臍ヲ所ノエヒトリム腫脹ス或

ハ其疹著シカラス自ラ消エテ滲出物ヲ出シ角膜中ニ於テ變シテ沕乙トナル若シ其勢劇甚ナレハ結膜強膜著リ血積ニ他所ニ顯ル者ノ如ク疹内ニ滲出物ヲ出シ其物始メハ透明次テ混濁トナリ遂ニ破潰ス蓋シエヒトリムノミ破潰スレハ外面薄キ小瘍ヲ生シ通例速ニ愈ユ若シ滲出物ヲ深所ニ發スレハ汚穢灰白瘍ヲ生シ其瘍圓クシテ邊緣ニ豚肉状ヲナス角膜ノ纖維損敗セラレハ結膜ニテ其缺ケヲ補ヒ以テ曇暗ヲ致ス凡ノ此潰瘍ハ久シク治セス蔓延シ猶且

甚シキニ至テハ穿孔シ、水樣液ヲ漏出シ、瞳孔ヲ突出セシム。或ハ此症、結膜腺樣焮衝ト交互シ来ル。

眼瞼痙攣亢機ノ度ニ關係シ、時アリテハ良善ノ補機トナルヲアリ、如何トナレハ其痙攣ニ由テ、眼球ヲ鎖閉シ、外氣ノ感入ヲ防キ、是ニ由テ屢滲出物ヲシテ、石灰質ニ變セシムルヲアレハナリ。

豫後
總テ吉トス、然レ凡殊ニ病ノ輕重ト、治法ヲ受ル規則トニ應シテ異ナラサルヲ得ス。

治法

腺樣惡液質、病原トナリ来ル者ハ、是ヲ制スルニアリ、多血ノ體質ニテ、焮衝劇甚ナレハ、防焮治法主治トス、然レ凡長ク是ヲ行フ可ラス、刺衝機任盛スレハ、左劑ヲ内服セシム。

方 實芟多利私 三 瓜 甘永 四

失鳩苓越幾私 四 瓜 麻屈捏失垂 一 瓜

右調勻、六包トナシ、四小時毎ニ一包ヲ服サシム、病者ノ體格、弛緩衰弱スル者ハ、規尼捏、枸椽錢劑ヲ和シ與フヘシ、月經閉塞ニ起因スル者

ハ、盧薈沒藥ヲ與フ、羞明アル者ニハ、眼圍ニ麻
醉藥ヲ塗貼シ、且ツ光明ヲ避クヘシ、小疹破レ
テ潰瘍ニ變スレハ、其生機ノ度ニ應シテ處置
スヘシ、若シ滲出物ヲ吸収スルノ機怠慢ナレ
ハ、硝酸銀稀水水一ムヲ一モノヲ滴入シテ、吸収
機ヲ奮發セシムヘシ、又阿芙蓉丁幾ヲ滴入ス
ルモ可ナリ、弛緩甚シキ者ニノミ、甘汞末ヲ吹
入ムヘシ、皮上ノ誘導法ハ効ナキ者ナリ、

第二 密翳

此症ハ、焮衝ニ因テ生スル成形滲出物ヲ、角膜ノ

エビトリム下ニ出ス者ナリ、

角膜焮衝並
簾翳合併症

而メ全

面ニ生スル者アリ、一部分ニ生スル者アリ、其急
性ナル者ハ、血積ノ状盛ナリ、其慢性ナル者ハ、潰
瘍滲出物ノ状盛ナリ、角膜赤色ヲ放テ膨脹シ、焮
衝ノ為メニ生スル新脉ヲ顯ス、此脉多クシテ、恰
モ角膜ヲ赤膜ニテ被覆スルカ如クニ顯ル、故ニ
是ヲ密翳ト名ツク、殊ニ是ヲ診スルニハ、原因ニ
注意シ、外傷ヨリ来ルカ、交感ヨリ来ルカラ辨ス
ルニアリ、若シ滲出物油ノ如クナレハ、エビトリ
ムヲ剥脱シテ腫脹シ、其部混濁シテ、恰モ靄霧ヲ

寧フカ如シ。視力著シク碍ラレス。凡ソ滲出物少
ナケレハ、尿管ノ新生愈多シ。時アリテハ強膜ヨ
リ尿管出テ、角膜ニ入ルノ著シキヲ視ル。若シ脉
管、靜脉努張狀ヲナセハ、病者、物ヲ視ルニ赤色ヲ
覺ヘ、又タ異物ノ眼中ニ飛入スルカ如キヲ覺フ、
其經過急性ナル者ハ反應症著シク、羞明、眼瞼症
攣、流淚等ヲナス。慢性或ハ頑麻ノ症ニハ、此ノ如
キ症狀ナシ。視力ノ障碍ハ、病ノ發勢強弱ト、翳ノ
大小トニ由テ異ナレリ。

原因

外傷、惡液質、排泄物ノ閉塞、經閉、小腹多血是ナリ。
豫後

時期ト病ノ劇易トニ係リ、又病因ヲ一掃シ得ル
ト然ラサルトニ關リ、治療ノ巧拙ニモ係リテ異
ナレリ。一旦泌別スル物ハ、消散スル機甚ク慢徐ナ
リ、而シテ再感シ易シ。久年ノ者ハ不治トス。若シ其
原因純粹ノ器械病、外反、腫瘍等ニ由レハ、其原因
去ルニ從テ自ラ治ス。惡液質ニ由ル者ハ、其組織
ヲ破潰シ、或ハ軟化シ、或ハ剝脫ス。若シ此時ニ當
テ、眼室ノ水液增益セハ、軟化スル所ノ角膜ヲ突

出セシメテ以テ葡萄腫ヲ致ス。若シ此時ニ及テ、治療ヲ怠レハ、角膜ヲ穿孔シテ、水晶體ヲ失亡シ、其萎弱ヲ致ス。

治法

外用、内用ヲ合用スヘシ。原因ヲ去リ、器械病ヲ止メ、或ハ手術ヲ以テ治スヘシ。燠衝ノ度劇シケレハ、蟬針下劑殊ニ甘汞ヲ良トス。反應症ノ羞明ノ如キ者ハ、麻酔膏ヲ眼圍ニ塗ルヘシ。又粘滑ノ眼、蒸法効アリ。組織腫脹スル者ニハ、収斂藥ニ、阿芙蓉丁幾ヲ和シ、滴入ス。吸収機ヲ奮發セシムルノ

主藥ハ、硝酸銀ヲ膏藥ニ製シテ、是ヲモ毎日毛筆ニテ塗ルヘシ。其量ハ、二匁ヲ軟膏二匁ニ和スル者ナリ。而シテ或ハ三匁ノ鉛糖ヲ加エテ効アルアリ。腺病ニハ殊ニ其効著シ。或ハ單膏ニ赤降汞、白降汞、若クハ次陣ヲ加ヘ用ルト雖モ、其効本劑ニ及ハス。萎弱性ニハ、器械様ノ刺戟ヲ與ヘテ、吸収機ヲ奮發スヘシ。其藥ハ、砂糖、甘汞、硝子末、及ヒ酒石ニ砂糖ヲ和スル者等ナリ。此散藥、極メテ細末ニナスヘシ。是ヲ行フノ際、吸収機動クヲ見レハ、猶連用スヘシ。若シ是ヲ行モ効ナキ者ハ、腐蝕

劑ヲ塗貼シ、尚且ツ淋毒ヲ種ルノ法ヲ試ムヘシ。
第三 角膜實質ノ燐衝、滲出物ヲ魚ヌル者。
此症ハ稀レナリ。其始メ滲出物稀レニシテ、角膜
層間ニ生スレハ、視力ヲ碍ルヲ微ナリ。曇暗モ亦
薄シ。若シ燐衝劇シケレハ、滲出物速ニ増加シ、忽
チ盲トナル。或ハ屢曇暗ヲナス者アリ。凡ソ此滲
出物ハ、組織間ニ出テ、組織ヲ離間ス。今マ滲出物
膿ニ變シ、而メ或ハ吸收セラレ、或ハ其部ニ止リ
テ去ラサレハ、則枯膿トナル。此症ハ、角膜層間ニ生ス
ル者ニシテ、殊ニ老人ニ多シ。其形チナリヘル
即チ

角膜ニ同シ。其半月状ヲナス者ハ、本角膜組織ト、

デッセメント膜トノ間ニアリ。而メ恰モ眼室中ニ

浮泳スルカ如キ形ヲナス。若シ瞳子ニ密斑ヲ

生スレハ、脈管ノ新生スルヲ見ル。強膜ノ結膜中

ニアル者ハ、脈灣ヲ見ル。而メ反應症ヲ發シ、劇痛

ヲ魚子。延テ頭ノ半側ニ及フ者アリ。

豫後

原因ニ從ヒ、外傷ニ從ヒ同シカラス。コールニホ

ルムステークル器ニテ損傷スル者ハ、甚危ニ是

角膜實質ヲ破レハナリ。

治法

原因ニ從ヒ、顯症ニ從テ、異物アレハ速ニ是ヲ去
ルヘシ、焮衝劇シキ者ハ、防焮法耳、後ノ蟬針、項ノ
角法、稀釋下劑應ス、外傷ニ因ル者ハ、寒罨法、羞明
アル者ハ、麻醉藥、内藥ニハ、甘汞ト菲沃私、和劑、
収ヲ促スニハ、水銀膏、内服ニハ、甘汞、葶苈、越幾
私、是ニ魚子テ項、或ハ膊ニ及對刺戟ヲ行テ効ア
リ、此ノ如キ治法ヲ行テ、良善ノ食餌ヲ與フレハ、
曇暗速ニ治ス、ホス子ル^{名ノ}稱譽スル方法ハ、
ウタニ^ムヲ點滴シテ、スチビカ^{吐酒石金ヲ内服}
硫黃ノ類

セシムルニアリ

第四 胃寒後角膜焮衝

此病、多クハ結膜焮衝、強膜焮衝、紅彩焮衝ヲ合併
シ、而テ纖維狀ノ滲出物ヲ產出ス、此滲出ヲ致ス
者ハ、角膜ノ全面、輕ク灰白色ヲナシ、其滑澤ヲ失
ヒ、或ハ小疹ヲ發シテ、其疹愈ルノ後、少ク陷凹ヲ
殘スモノアリ、角膜實質中ニハ、絶エテ脈管ノ顯
ルヲ見ス、只角膜ノ邊緣ヲ繞テ、脈管生ス、流滯頻
リニ出テ、羞明アリ、通例黃昏、夜晚甚シク、儻麻質
痛アリテ、今必増進セス、纖維質ノ滲出物ヲ併發

スル者ハ化膿ニ傾キ易キ性ヲ著シク具フ此病尤モ危険ニシテ且再感ニ易シ蓋シ是ヲ患ル者ハ甚々稀レナリ一幸ト云フヘシ此症ハ屢燃衝劇甚ナルアリ

治法

清血法主治トス暗室ニ靜坐シ夜晚疼ミヲ生スレハ暖罨法ヲ行ヒ眼圍ニ水銀膏ニ阿芙蓉ヲ和スル者ヲ塗貼ス凡ソ此症ニ局處藥ヲ用ユルハ害アリ燃衝去レハ儻麻質ヲ制伏スル所ノ方劑ヲ以テ是ニ應スヘシ則チ發汗劑皮膚ノ刺戟全

身浴等是ナリ

第五

角膜後面ノ燃衝滲出物ヲ兼併スル者

是デッセメント膜ノ燃衝ニシテ實ニ特立病ニ非スニテ是レニ屬スル所ノ諸症ハ紅彩燃衝毛樣韌帶燃衝等ニ由ル者ナラニ凡ソ此病ニ因テ顯ル所ノ滲出物ハ水樣液ニシテ角膜ノ後面ニ沈著ス故ニ假リニ名ケテデッセメント膜燃衝ト云モノナリ其水樣ノ滲出物累々區分ニテ觀察ヲ分チ以テ角膜ノ透明ヲ遮ル傍側ヨリ是ヲ見レハ著シク其病所ヲ辨シ得ヘシ紅彩水樣液ノ

發勢ノ輕重ニ由テ、視力ノ障碍ヲ致スニ差等アリ。通例左ノ如ク區別スルヲ良トス。

其一 單エビトリム剥脫

此症ハ著シキ顯症ナク經過ス、其脫離セシ所ハエビトリム、容易ク恢復ス、多クハ醫療ヲ用ルニ及ハス、故ニ此症ハ尤モ辨シ難シ。

其二 陷凹潰瘍

此症ハ「エビトリム」ト、角膜トノ外層ヲ侵シテ成形滲出物ヲ生シテ治ス、故ニ其部曇暗ヲ遺ス、其曇暗漸々治シテ跡ナクナルノ日數ハ遲速アリ。

此病多クハ腺病ノ者患易ク、而メ始メハ小疹ヲナシ、其小疹破レテ以テ潰瘍ニ變スルナリ。稀薄消酸銀是ヲ治ス、又陷凹久シキヲ經ルモ治スル者ナキニ非ス。

其三 膿瘍

此症難治、角膜組織傷害セララル、ナリ甚シク、其部化膿シテ深ク侵蝕ス、殊ニ小兒淋病ヲ患ル者、角膜瘍ヲ發スル者ハ、此病ニ罹リ易シ、其幸禍ニテ治スル者ハ、曇暗ヲ遺スナリ、若シ其部、焮衝ヲ生スレハ、羞明ト眼瞼ノ痙攣著シク、又眼瞼水腫

ヲ合併スル者アリ。凡ソ結膜ノ脉管瘍或ハ疹ノ
邊緣ニ繞ル小疹ノ深キ者ハ殊ニ危險ナリトス。
大抵癰痕ヲ残シテ曇暗著シク日ヲ延テ治セサ
ル者アリ。角膜上ニ淺ク生シ其形浮沫スルカ如
キ瘍ハ治シ易シ。

此小瘍ノ原因ハ左ノ如シ

其一 器械様舍密様ノ外傷。

其二 眼ノ胃寒。

其三 眼焮衝斑點

其四 角膜ノ結膜痘瘡

其五 淋眼

其六 角膜深層ノ焮衝

其七 弟扶私虎狼利産婦ノ蓐熱及ヒ惡性熱様

皮疹殊ニ麻疹ノ類是ナリ。

惡液質ニ因テ衰弱スル者ハ此小瘍ヲシテ蔓延
セシム。而メ滋味ノ食餌ヲ與ヘ攝生ヲ良善ニ成
スモ速ニ治シ難シ。凡ソ此小疹ヲ治スル者ハ始
メ成形滲出物ヲ出シ凝リテ形ヲナシ其物遂ニ
組織トナリ亡失スル所ヲ補給ス故ニ幼童壯夫
ノ體格健康ナル者ハ頗ル治シ易シトス。

治法

原因ニ從フヘシ。病角膜組織ノ深所ニアル者ハ、有力ノ防燠法應ス。若シ滲出物化膿ニ變セントスルノ状アリテ、而メ之ヲ吸收スルハ勢微ナル者ハ、吐劑極メテ効アリ、而ノ眼上ニ毬布ヲ貼ス。已ニ膿瘍ヲナス者ハ、其所ニ針刺シテ膿ヲ泄スヘシ。小瘍ハ、注意シテ清淨ニナシ、收斂刺戟ノ眼水ヲ禁ス。是害アリテ効ナケレハナリ。若シ經過緩慢ナル者ニハ、阿芙蓉丁幾ヲ滴スルヲ毎日一二回、内藥ニハ「アトロピ子」効アリ、又是ヲ膏藥ニ

作りテ貼スレハ効アリト云フ。又小瘍既ニ深ク侵蝕シテ、「テッセメント」膜ヲ貫通シ、眼ヲ壓迫スルヲ極メテ甚シケレハ、瘍底ヲ針ニテ貫クヲ良ト云フ説アリ。

角膜軟化及壞死

此症甚ク危險ナル者ニシテ、其發生ト經過ハ著シカラス。多クハ舍密様ノ外傷、火傷、淋疾ノ為ニ一時ニ角膜ヲ荒敗スルニ由テ起ル者ナリ。又燠衝ノ後、血液循環ノ傷害、給養不足、此症ノ近因トナル者アリ。又給養ヲ主ル神經病ニ、其機能不足

スレハ、則此症ヲ生出ス。是ヲ治スルノ法ハ、極メ
テ難シ、劇甚結膜焮衝ニハ、腫脹シタル發脾ヲ剔
出スベシ、而ノ給養ヲ興復シ、滋味ヲ食スルヲ良
トス、「ジビ」テレニ、
名ハ「ボロ」ル水ヲ以テ、洗濯
スルヲ稱セリ、若シ神經衰弱スル者ハ眼勞ヲ生ス、

角膜曇暗

此症ハ、角膜組織ノ透明ヲ失フ者ニシテ、焮衝、及
ヒ他ノ病ニ繼發スル者ナリ、是ヲ焮衝、或ハ潰瘍
ヨリ生スル所ノ、不透明ヨリ辨別スベシ、

其一 角膜前面曇暗

角膜ノ前面ニアル者は、是「エビトリ」ム層ニアリ、其
形チ、或ハ煙ノ如ク、或ハ霧ノ如ク、或ハ雲ノ如キ
翳ヲナス、多クハ角膜組織ノ深層曇暗ヲ兼併ス
而メ是ヲ全曇暗ト名ツク、若シ「エビトリ」ムノミ
病ム者ハ、其翳、或ハ簾ノ如ク、或ハ霧ノ如ク、稀レ
ニハ角膜上ニ隆起スル者アリ、或ハ中層ニ接ス
ル者アリ、内裏ニ生スル者アリ、而メ角膜ノ全面、
或ハ局面ヲ病ミシムル者アリ、

原因

異物ニ由テ、荏苒刺戟スレハ「エビトリ」ム、胨狀

ニ厚クナリ、且硬クシテ外部ノ皮膚ノ性ニ變シテ此状ヲナス。密翳燃衝後ニ發スル者ハ「アルト」ト名ノ説ニ從ハ、特性ノ者ニシテ、角膜上ニ浮泳スル者ト云ヘリ。

其二 角膜後面曇暗

此症ハ諸症ノ繼發症トナリ發スル者ニシテ、廻年頗ル是ヲ探索セリ。然レモ「デッセメント」膜ノ燃衝ニ由テ生スル者ニ非ス。又「チメルケル」ヲ生シテ、翳ヲ顯スト云フ説モ疑フベシ。多クハ劇甚結膜燃衝ノ曇暗「デッセメント」膜ノ腫脹、紅彩、毛樣靱

帶ノ燃衝ニ由テ生スル者ナリ。其形ナ恰モ鐘表器ノ外罩硝子ノ内面ニ氣ヲ呵シテ是ヲ外方ヨリ窺ヒ見ルカ如シ。多クハ原因治スルニ從テ去リ、紅彩、滲出物ヲ出セハ又則之ヲ生ス。其状或ハ尖リ、或ハ線状ヲナス。而モ經過頗ナリ、又「デッセメント」膜破レテ是ヲ生スル者アリ、又外傷ニ由リ角膜是ニ抵抗シテ、其創ヲ受ケテ是ヲ生スル者アリ。

其三 角膜組織曇暗

此症種類頗ル多シ

甲 天稟症

其母胎ニアル時發育ノ障害ニ由テ生スル者、或ハ母胎ニ兒アリシ時、煥衝ヲ患テ繼發スル者ナリ、其原因多クハ胎毒ニ出ツ、大抵娩後一歳ノ間ニ治ス、症状多クハ兩眼ニ曇暗アリテ、其形ヲ斑翳ノ如ク、或ハ既ニ娩後一周ニシテ消散スル者アリ、又此ノ如キ體質ニ在テハ、生涯治セズ、遂ニ黑障眼状ヲナス者アリ、其他此症ハ病理治法總テ明了ナラス。

乙 老人症

灰白状ノ暗點ナリ、煥衝ナクシテ發ス、總テ老人ニ及ヘハ、白髮ヲ生スルカ如ク、其理明カナラサル者ヨリ生ス、又遺傳ニ由テ生スル者アリ、又二十歳ヨリ四十歳ノ際ニ生シテ、其病症自若トシテ、留連増減セサル者アリ、總テ其生スル所ハ、角膜ニアリテ蔓延ス、或ハ角膜ノ一所ニ限リテ生ス、是ヲ病入者多クハ遠視眼トナル。

アモン、人名二層輪ノ相竝ヒ生スルヲ見ル、此症恐クハ其所ノ新陳交代減スルニ由テ、此症ヲ

ナス者トス、又一種脂肪ノ化成シテナル者ト云フ説アリ、此説真ニ近キニ似タリ。

丙 滲出物曇暗

滲出ノ輕重度ニ從ヒ、各名異ニス。喻ヘハ斑翳、霧翳、雲翳、烟翳等ノ如シ、皆焮衝、滲出物ノ轉化スル者ニシテ、或ハ是ニ潰瘍ヲ兼ヌル者アリ、之ヲ患ルノ日久シカラス、治療宜シキヲ得レハ容易ク、恢復ス其恢復スルニハ、或ハ吸収機ヲ奮發セシムルニアリ、或ハ一身ノ泌別ヲ盛ニシ、是ニ乘シテ吸収セシムルニアリ、

丁 膿樣曇暗及其繼發症、

膿ノ稀汁ヲ吸収シ盡セハ、膿球硬キ黃物トナリテ其所ニ遺ル、大抵其中央頗ル硬クシテ、消工難シトス。

戊 癰痕曇暗

創瘍ノ癰痕ヲ以テ治シ、其癰痕ヲ殘シテ、曇暗ヲ致ス者ナリ、不治症トス。

癸 滲出沈降翳及結痴狀翳

此者異物トナリ、其所ヲ刺戟シテ、時ニ焮衝ヲ起シ、化膿ニ轉ス、病原ヲ索ヌルニ、適當ナラサ

ル眼水殊ニ鉉糖ニ由テ生スル者ナリ此沈降
物始メ白キヲ雪ノ如ク遂ニ假膜ヲ生シテ被
覆シ浮泳シテ汚穢ノ黄物ヲ顯ス
繼發症ハ翳ノ輕重度ニ從テ齊シカラス視力
ヲ遮ルヲ又視軸ノ轉移ニ從ヒ紅彩ノ後方ニ
牽縮セラルニ從ヒ墨翳ノ居處ニ從ヒ不同
アリ然レ氏總テ視力ヲ妨ルヲハ翳ヲ發スル
所ト翳ノ大小ニ應シテ論スレハ略辨明スル
ニ庶幾シ壯健ノ眼ヲ閉テ疾眼ノミヲ用ユレ
ハ其斑翳ヲ辨スヘシ若シ角膜一半曇暗トナ

レハ病者物像ノ半體ヲ視得ヘク若シ莖莖ヲ
點スレハ一時ハ物像ノ全體ヲ視得ヘシ其悉
ク見得ヘキニ至ラス氏其大半ヲ認得ヘシ
凡ソ物像ヲ正視セントスル時ニ當レハ病者
實ニ我ヲ忘レテ疾眼ヲ手ニテ覆フナリ或ハ
習癖トナリテ斜視ヲ致スアリ小兒ニ至テ
ハ内眥ニ傾キ大人ニアリテハ外眥ニ傾ク其
他屢瞬ヲ致ス病眼ハ速ニ勞レテ正視ニ難キ
故ニ時アリテ休息セサルヲ得ス若シ曇暗症
ニシテ眼ヲ勞スルヲ非常ナレハ則近視眼ヲ

致ス其近視眼ハ一眼ニアル者アリ或ハ兩眼ニアル者アリ

豫後 治法

豫後治法共ニ確實ニ是ヲ論ハヘキヲアリ或ハ全ク論明スルヲ能ハサルヲアリ曇暗多クハ治セスシテ自ラ治スル者アリ又全ク不治症ナル者アリ或ハ昔日頑固ニシテ曇暗少シモ動カス四十年ノ久シキヲ歷テ自若タル者急ニ佳候ヲ俟シテ物像ヲ視ルヲ明了ナル者アリ若シ視力實ニテ給養良善ナル者ハ吸収力奮發シテ曇暗

消シ新タニ透明ナル組織生シテ是ニ替ル豫後ヲ概論スルニ新生ニシテ分界正シキ者ハ治シ易シ曇暗深所ニアリテ經久斑痕アル者ハ不治トス

ベール^ル名ノ説ニ從ヘハ曇暗灰白色ニシテ硬ク分界正シカラス殊ニ脉管分岐シテ其内ニ入ル者ハ直チニ解凝轉覆劑ヲ行^スシト云フ然レモ曇暗透明ナラサル白色ニシテ滑澤アリ而モ隆起シ脉管是ニ入ラサル者ハ豫メ粘滑軟化ノ藥劑ヲ用ユ縱ヘハ眼蒸劑亞麻仁蒸劑蜀葵煎汁肝

油等ヲ外用シ其後先ツ刺戟劑ヲ行ヒ遂ニハ刺戟衝動ノ效力雄偉ナル者ヲ行ヒ以テ新タニ燃衝ヲ誘發シ是ニ乘シテ吸收器ヲ奮發セシム則チ嘗テ有ル所ノ曇暗新燃衝ハ滲出物ノ為メニ軟化セラレ以テ吸収ノ度ニ適ハシム但シ眼ヲ侵ス所ノ感傷ヲ悉ク避ケ誘導ノ醫藥ヲ悉ク禁ス。是害アリテ効ナケレハナリ食物ハ刺戟セサル滋養物ヲ與フ大抵是等ノ法ニテ淺キ曇暗ハ消散ス其後輕キ収斂藥ヲ行フ縱一ハ神効石水ニ阿芙蓉丁幾ヲ加ル劑ノ如シ則自愈全カルヘ

シ若シ曇暗厚クシテ且組織中ノ深キ所ニアル者ハ治ニ難キヲ以テ吸收器ヲ奮發スル藥法ト特效アル藥劑トヲ反復ニ行テ其消散スルヤ否ヲ試ムヘシ多クハ効ナキ者ナリ「アフル」ト名ハ此深所ニアル曇暗ニ左ノ劑ヲ次第シテ試ミタリ。

第一方

失鳩谷越幾私

々

蒸餾水

二了

右調勻

第二方

カヘリドニム

越幾私

十公
英ノ
即
痛
炎

餾水 一了

右調勻

第三方

水製蘆薈越幾私十

鰾水二

右調勻

第四方

舍電花謨阿芙蓉液

水適宜二溶

和スル者

第五方

升永四分

舍電花謨阿芙蓉液

四
分
ヨリ

第六方

消酸銀

半
分
ヨリ

鰾水一

右調勻

第七方

礪砂

白糖各一

薄荷水一

右調勻

第八方

礪砂

白糖

各一

阿芙蓉越幾私

蘆薈越幾私

各三

右調勻

第九方

鹽酸バレー

夕

五

老利兒水一

右調勻

小二時每

一滴

點ス

第十方

腐蝕加里

二

鰾水

一

右調勻

此諸劑ハ製法ノ時注意シテ能溶解セシメ、勉メ

テ清淨ニ是ヲ製セスハ非ス、決テ一時多量ニ製

スヘカラス、凡ソ此諸藥ハ皆吸收變質ノ法ニシテ、猶一切局所ノ法ヲ行フヘシ、殊ニ内服ニ解凝劑、沃陣、遠志、硃砂等ヲ用テ、其藥力ヲ助クヘシ、點眼藥ハ、或ハ交互シ用エ、或ハ其効力微ナル者ヨリ次第シテ昇リテ、強キ者ニ移ルヘシ、總テ眼ニ點スル所ノ量ノ多小ト、強弱ノ度ハ、病者ノ體格ニ應シテ斟酌セスハ非ス、嘗テ總論ニ舉ルカ如ク、特異症ニハ之ヲ變シテ應用セスハ非ス、諸藥全ク効ナク、深キ所ニ在者ハ、術ヲ以テ瞳孔ヲ造ルヘシ、

眼科摘要卷之五了

